

にんにくの「おんぶ症りん片」の発生条件

野菜研究所

にんにくでは、りん球の保護葉の一部に貯蔵養分が蓄積する「おんぶ症」の発生が見られることがあり、おんぶ症が発生したにんにくは、乾燥や貯蔵の過程でカビなどが発生しやすくなります。このおんぶ症の発生要因を解明するとともに、軽減対策を明らかにしたので紹介します。

にんにくのおんぶ症



「おんぶ症」: 保護葉の一部に貯蔵養分が蓄積することで発生。乾燥や貯蔵の過程でカビなどの被害が出やすい。

発生要因の解明(試験)

野菜研究所での試験条件 : 基準施肥量分の窒素全量を基肥で施用 + 過剰な追肥

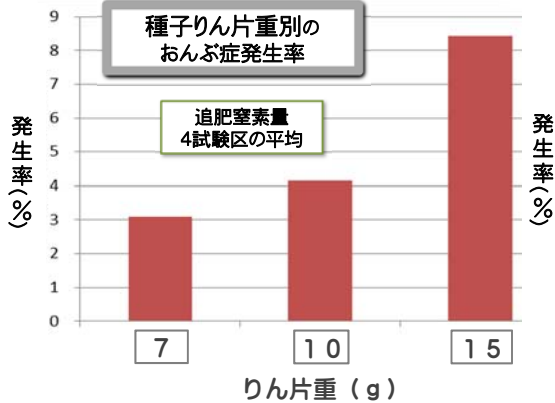
基準施肥
(全量基肥で施用)
窒素量 2.5kg/a



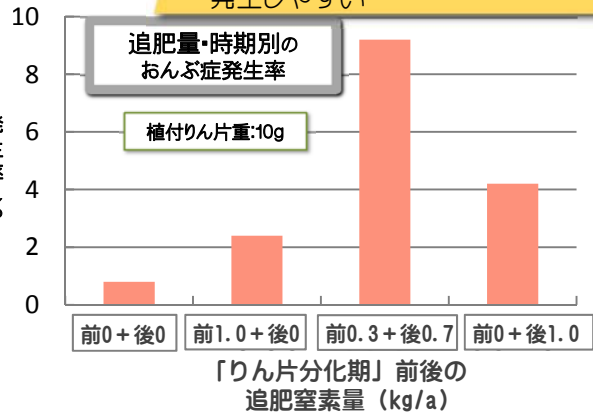
過剰な追肥
窒素量
1kg/a

堆肥: 200kg/a (牛ふんおがくず堆肥)
基肥: 全区、窒素量2.5kg/a
りん片分化期: 4/27
追肥: 分化期前4/15、分化期後5/8 (いずれも液肥で施用)

種子りん片重が大きいほど発生しやすい



りん片分化期の前後に渡って過剰に窒素を吸収すると発生しやすい



りん片重を考慮

窒素量に注意

発生軽減対策

◆大きめのりん片を植え付けする時は、減肥する必要がある。

◆施肥前に土壌診断を実施し、ほ場の地力を把握した上で、県・JAの栽培基準に準ずる。

基肥+追肥を合わせた総量で
りん片重10~13gのとき、施肥窒素量2.5kg/aを目安

お問い合わせ

野菜研究所 栽培部 (TEL0176-53-7171)